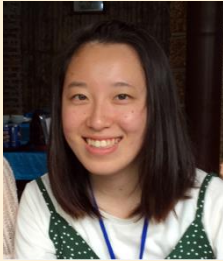


2017 年 ベトナムプログラム 体験記 (5 名)



文化構想学部 1 年 竹内ゆめ

私は以前にもベトナムへ訪問経験がありました。入学関係の資料の中にこのプログラムを見つけ、また行きたい、今度は同年代の学生と交流してみたいという思いで申し込みました。

事前授業では、まず班に分かれてそれぞれが調査するテーマを決めました。同時にデータや研究からわかる社会の見方を学びました。これらを参考にして、現地の人たちに直接インタビューを行いました。渡航中は英語の話せるベトナムのボランティアで同行してくれました。夜は彼らとベトナム国家大学の寮に泊まりました。私自身貴重な体験だと思ったのは、都市を離れて村に行って畑仕事やホームステイができたことです。またそこでは伝統服を着て自転車でサイクリングもしました。他にはハノイのナイトマーケット、料理教室、ハロン湾などが予定に入っていたので、1 週間という短い時間でもベトナムをできる限り体験することができたと思います。事後の授業では調査結果をまとめ、班ごとに発表をしました。正直初めは知り合ったばかりの同級生たちと外国に行くことに不安しか感じませんでした。でも渡航を経た後信じられない程距離が近くなったことには本当に驚きです。私はこのプログラムに参加して一層国際交流や留学に意欲が芽生えました。これを期に今後の大学生活の目処を立て、実行に移せるよう努力するつもりです。



社会科学部 1 年 安達 保乃香

私は以前から大学では中長期の留学がしたいと思っていた。将来的には発展途上国の現場で国際協力がしたいという希望もあり、この時期のベトナム留学は自分にとって大変意義のある一歩になると思い参加を決めた。

実際にベトナムに行って気が付いたのは、自分がいかに固定観念を抱いていたかである。出発前の私は、治安が悪くてすられるんじゃないかとか、もの食べてすぐにお腹を壊すんじゃないかとか、途上国のネガティブイメージをただただ想像し、変な警戒心のようなものを抱いていた。自分の目で確かめたわけでもないのに。だがいざ行ってみると、そのようなイメージが次々と覆されていった。現地に足を運び、自分の目で確かめることがどれだけ重要であるかを実感した瞬間だった。

私はたった数日のうちに、日本に帰りたくないと思えるほどベトナムが好きになれた。最初はそこまでおいしいとは思えなかったベトナム料理も、今では恋しくて仕方がない。帰国後 2 週間に 1 回くらいのペースでベトナム料理を食べているくらいだ。ここまでベトナムが好きになれたのは、ベトナムで人との素晴らしいつながりが生まれたからだと思う。現地のバディーも一緒に行った日本の仲間もみな、自分の大切な財産となった。そして、目の前のチャンスを掴むことがどれだけ重要であるかを実感した。これからもチャンスを貪欲に掴んで、世界に出ていきたいと思う。



教育学部 1 年 宮本 理央

「大学に入ったら必ず留学したい」とずっと願っていたところ、入学資料の中の 1 枚に今回の留学プログラムのお知らせが入っていました。はじめはヨーロッパなどの地域に留学したいという願望がありましたが、今回の機会を逃せばいつか後悔すると思いエントリーしました。

ベトナムでの 1 週間は自分の予想を覆すものになりました。日本では見られないものや食べられないものを経験でき、一緒に行って協力し合った仲間や引率の方、現地で色々なところに案内してくれた学生との親睦が深められ、色々なことに取り組むにしてもより一層楽しく充実した時間を過ごすことができました。ヨーロッパを希望していた数週間前の自分に笑ってしまうほどでした。

私自身かなりの人見知りで、特に外国人に話しかけられるのが苦手でした。話しかけないでというような姿勢をとりがちでしたが、今回の 1 週間でまた大きく考え方が変わり、むしろどんどん相手とコミュニケーションをとりたいと思うようになりました。これは自分自身の力でなくこの留学を企画してくださった方々や現地でのお世話になった学生たちのおかげであると思っています。今留学を考えている方々には是非、希望地でなくてもベトナムへの留学をお勧めします(笑)。



ベトナムから学んだこと

教育学部1年 末吉 充直

初めての機内食を経験してからベトナムに到着して感じたこと、それは「日本と全く違う!!!」だった。まず暑い。長袖長ズボンで東京を出たのだがそれは間違いだった。そしてバスに乗ってハノイ市内に行く際、走っているバイクの数や高層ビルの様子、民家の数や外観、街の雰囲気など同じ首都である東京ときわめて異なっていた。そのようなことを一週間ずっと感じ続けて過ごしとても貴重な経験をする事ができた。私が一番学んだことは異文化理解の大切さだ。日本はかなり恵まれている国だと気が付かされた。日本では水道水を普通に飲むことができるがそのような国は少ないらしい。日本で当たり前だということは必ず海外で通用するとは限らない。その際に不満を持つのは間違っていると思った。日本と違う状況こそがこの国の文化なのだ、郷に入っては郷に従え、なのだ。そのような立場に立って初めて異文化理解ができ、それができて初めて様々な学習につながるのだと思う。私は将来難民キャンプで働きたいと思っている。そのためには異文化理解をしたうえでの様々な取り組みというものが最重要である。その大切さを学ぶことができた一週間であった。この経験を活かしこれからの大学生活を充実させていきたい。



法学部 1 年 山本 菜々

私にとって今回の留学は、初めての体験ばかりだった。海外に行くことに興味はあったもののこれまで留学経験のない私は、まずは1週間という短い期間のプログラムに参加してみようと思った。また、家族旅行でベトナムを訪れたことがあるため親しみを感じ、ベトナムを選んだ。ところが、実際に現地で生活してみると、経験することすべてが新鮮で驚きの連続だったのである。はじめは、慣れない寮での生活や食事などで不安を感じていたが、ベトナム人の学生が話を聞いてくれたり助けてくれたりして、すぐに楽しく過ごせるようになった。また、行動を共にするうちに日本人同士もとても仲良くなった。

そして何より、外国を訪問し、旅行の時と比べて現地の人に近い生活をしたことで、これまで漠然としたイメージしかなかった「国際交流」を、具体的に考えることができるようになった。もともとは日本国内でできる範囲で英語を学ぼうと考えていたが、大学在学中にまた留学をしてみたいという気持ちがとても強くなった。私は今まで留学に対して臆病になっていたため、このことが今回の経験の中での一番の成長であると思う。これからこの気持ちを忘れずに学校生活を送っていきたい。